

「問いづくり」の実践

—教師12人のワークショップでの気づき、問いの変容の記録

2022年2月、本研究会では、「問いづくり」のワークショップをオンラインで実施しました。

文系・理系・国語の3つに分かれて行われた分科会では、特に生徒の学びを深めるための「C」の問いに着目し、「問い」をどのように進化させ、深めていけばよいかを話し合いました。

P.10～33では、ワークショップに参加した12人の先生方の「問いづくり」の実践を紹介しています。

最初に作成した「問い」、ワークショップでの気づき、ワークショップ後に修正した「問い」、次なる課題のすべての記録です。

1 事前ワーク

授業の目標などを基に、問いを作成

参加者は事前に「1.育てたい生徒像」「2.単元（本時）の授業の目標」を基に、「3.授業の中で具体的な問い」を作成し、ワークシートに記入して提出①。ワークシートは、ワークショップ前日までに参加者間で共有した。

2 ワークショップ：分科会

深めたいこと、解決したいことの共有・議論

文系・理系・国語の3つの分科会では、各自のワークショップで「1.深めたい、解決したいこと」②をもとに、他の先生との対話を通して「問い」を深めていった。その際、『C』の問いの具体化」に記載された疑問詞・接続詞など④を参考にした。

3 ワークショップ：全体会

気づきや課題の共有

分科会での対話の中で気づいたことや、出てきた課題を、全体で共有した。

4 事後ワーク

新たな気づきや改善ポイントを整理し、問いを修正

ワークショップで得た「新たな気づき」「改善のポイント」③をもとに、ワークショップ前に作成した「問い」を改訂⑥。次に、疑問詞・接続詞を活用し、『C』の問いの具体化」を基に、「C」の問いを作成した⑥。最後にまとめとして、ワークショップを通じて生じた「3.新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと」を記入した⑦。

■ 各参加者のワークショップの記録

問いづくりの実践

1 教科 中学国語 名前 伊藤 豊

ワークショップ前

1. 育てたい生徒像
①自分軸と他者軸を併せ持って判断し、行動できる生徒。
2. 単元（本時）の授業の目標
①本編作品に登場する二人の少年のうちどちらか一人を選択し、その少年が何年後かに挫折して精神的危機に陥る状況を描く。そして、第三者のキャラクターを自由に造形し、精神的危機から救出する場面を創作する。
3. 授業の中で具体的な問い 1
[Extensions]
創作後のふりかえりでの問いかけ
創作後の状況などをどのように変換するだろうか？
①人の価値観はどのようなきっかけで変容するだろうか？
[Connections]
感情移入しやすい方の登場人物の価値観を洞察するための問いかけ
①ヘルマン・ヘッセ『少年の日の思い出』に登場する「僕」あるいは「エーミール」は、将来どんな生き方をしようだろうか？（生徒は「僕」「エーミール」のうち、どちらか感情移入しやすい方を選ぶ）
②コラムラキに対するエーミールの評価に同意はあったのだろうか？
③あまたが特権ならどんな人物を造形し、「僕」あるいは「エーミール」を教えるか？
[Ideas]
登場人物のその場での心情を考えるための問いかけ
①夢中になって集めた大切なコレクションを「僕」がイバラに潰れてしまっているのを見て

ワークショップ後

1. 育てたい生徒像
①自分軸と他者軸を併せ持って判断し、行動できる生徒。
2. 単元（本時）の授業の目標
① 敵役の少年「エーミール」を主人公としてスピントフ物語を創作する。エーミールの心の葛藤を描く。（エーミールの心の葛藤を描くことにフォーカスする）
3. 授業の中で具体的な問い 6
[Extensions]
創作後のふりかえりでの問いかけ
創作後であげられても、なかなか許してあげられないことが実際にはある。そんな時、どんなことが価値観になるだろうか？
②人の価値観はどのようなきっかけで変容するだろうか？
[Connections]
創作前の準備、敵役の少年エーミールの価値観を洞察するための問いかけ
① なし（ワークショップ前の①を聞くこと自体を止めた）
② エーミールの発言に同意があると受け取る人がいる。一方で同意はないと受け取る人もいられる。そのような立場だと同意があるように読めるか？ またどのような立場では同意がないと読めるか？
③ なし（ワークショップ前の③を聞くこと自体を止めた）
*（新たな問い）エーミールは宝物を壊した運命の報明に対して寛容せず「ちぎっ」と返すことで相手を見下す発言をした。なぜそれしかないのか？
[Ideas]
創作後の準備、登場人物のその場での心情、二人の価値観

ワークショップを通した気づき+NEXT STEP

1. 深めたい、解決したいと思っていたこと 2
*生徒たちには、創作活動を通して自分とちがう価値観をもって、自分のように考えたり感じたりするのを体験してほしい。教師があらかじめ想定した問いを生徒を誘導しすぎないように、適切な問いかけを見つけたかった。
2. 改善のポイント 3
*「育てたい生徒像」「目標」が活動がどれほど有効なのか、批判的に考える。
*活動の自由度を上げ過ぎると目標から大きく外れてしまったり、しかし、自由度を下げ過ぎると活動がつまらなくなる。目標に達した自由設定を考えた方がいい。
*「育てたい生徒像」に向かうストーリーをたどるためのCの問いがとて大切。しかも、このフェーズでズレが発生しやすいので要注意。
*教師の問いかけが生徒の解答をある程度誘導してしまうことを前提として考えておく。
*「本当にそうなのか」のフレーズを使って前提を問い直す。そして、生徒から出された各論を吟味し、深い対話を発生させる。
*予期しない解答や発言を採り上げて議論を発展させるために、ゆとりをもった授業計画を立てる。
3. 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと 7
*みんなが興味をもって参加できる問いとはどのようなものだろうか？
*予期しない解答や発言をみんなで見守るために、即興で深い対話を発生させたい。教師はどのように応答したらいいのか？ そのコツを知りたい。

Cの問いの具体化

問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い
1. 本音が、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している。	「エーミールは「僕」に対して少しも怒りを感じていないのだろうか？
2. そう言える理由・ 理由の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論の論理的な関係性についている。	「エーミールが「僕」に対して怒りを表したり問い詰めたしらないのはなぜだろうか？ 「エーミールが「僕」の謝罪を最後まで聞こうとしないのはなぜだろうか？
3. 否定と反事実的推測 If, if not	否定によって、条件や状況を設定し推測の質を高めている。	もし「エーミールが「僕」に対して怒りを表すような人物だったらしたら、それ以前二人の関係はどのようなものだっただろうか？ もし「僕」が諦めず心をつくって謝罪したら、エーミールは謝罪を受け入れたのだろうか？
4. ~にもかかわらず Even though	真実な考えや事象を取り入れたうえで、考察をより深いものにしている。	「僕」が目の前で悔い改めて謝罪を受け入れたとしても不満を抱くことはできなかったのだろうか？ 「僕」を見下す言動をとるのはなぜだろうか？
5. ~なら、 ~が言えるだろうか If then, if not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その前提を問い直している。	もしエーミールが相手を見下すことだけしかできなかったとしたら、エーミールはどんな問題を抱えていると見えるだろうか？
6. 関係性の理解・発見 What = Why = How	関係性を理解したり、発見したりすることで、問いの前提や内容が変容している。	もしあなたの知人・友人が、あなたの大切なものを壊したり奪ったとして、その後そのことを悔い改めて謝罪したら、あなたは相手を許すことができるだろうか？ *相手の謝罪を受け入れるためには、あなたはどんなことを免罪しなければいけないのだろうか？
7. その他		